



# しらね 9月号

笑顔で寄りそっていける人に・・・

副校長 原田 真由美

この夏、短期企業研修として、5日間の日程で特別養護老人ホームに行くことになりました。学校現場しか知らない私としては、とても不安な気持ちでスタートした研修でした。

研修の内容はいろいろですが、中でも一番心に残り、これから私自身大切にしていきたいと思う「和顔愛語」という考え方に出会いました。これから大人に向かっていく子どもたちに、また保護者・地域の皆様にも心にとめてもらいたいすてきな言葉なので紹介させていただきます。

特別養護老人ホームですから、私たちの人生の先輩たちが、様々な事情を抱えながら生活をしているところです。たくさんの方の助けを得ながら、自分でできることはどんなに時間がかかろうと、どんなに大変であろうと頑張っています。その傍らに常に笑顔で寄り添い、見つめている職員の方々があります。

「和顔愛語」（わがんあいご）が職員の方々にも共通認識されているのです。

和顔・・・和やかでやさしげな顔つき。

愛語・・・愛情をもった語り口。思いやりのある話し方。

日々の学校生活の中で子どもたちとかかわるとき、笑顔で寄り添い、見守り、支援していけるようになりたいものだと思います。子どもたちも、こんな気持ちをもって友だちと接していくことができると、ますます雰囲気の良い学校・学年・学級になっていき、楽しい学校生活を送っていくことができるのではないかと思います。

本校の職員玄関にいつもきれいな花が飾られています。地域の方が定期的に花を持って来て飾って下さっているのです。その方は、いつもニコニコやさしい笑顔で職員や子どもたちに声をかけてくださります。子どもたちが通ると、花の名前を教えてくださいます。子どもたちに向かって、「本当にみんないい子だね。かわいいね。挨拶できて偉いね。」

と言って、時には頭をなでてくれます。

「おばちゃん、みんなのことが大好きだよ。」

と言って、いろいろな話をしてくれます。

和顔愛語という言葉を知った時、真っ先に浮かんだ方が、地域の西ヶ谷さんでした。他にもそんな眼差しを本校の子どもたちに向けてくださる地域の方がまだまだ沢山います。白根の子は幸せだなと思いました。



お花を飾って下さる西ヶ谷さん

企業研修を通し、本校の教育活動に協力していただいている方々を思い起こすことができたことは、私にとってとても有意義だったと強く感じました。